

The page features a decorative border consisting of two parallel lines, one dark brown and one gold. Several stylized flowers are scattered across the page: four light orange flowers in the upper right and middle right, and four red flowers in the lower left. The text is centered and arranged vertically.

令和四年度

第38回 青少年の主張矢祭大会

作文集

矢祭町青少年育成町民会議

# 開催趣旨

矢祭町は、「元気な子どもたちの声が聞こえるまちづくり」を基本理念に掲げ、行政、議会、町民がそれぞれの役割を果たしながら、独立独歩のまちづくりを進めていくことを誓っています。恵まれた自然環境の中で、夢を持って子育て・子育てが出来るとこそが矢祭町の誇りであります。

青少年の主張大会は、矢祭町の未来を担う子供たちが、自分たちの抱える未来への想いを発表する場です。その強い想いを、行政、議会、町民がそれぞれ真摯に受け止め、これらからのまちづくりに対する責任を再確認する場でもあります。

未来を担う子どもたちの成長を見守りながら、これからの矢祭町に思いを馳せる、そんな場になって欲しいと願っています。



## 【目次】

# 第38回青少年の主張矢祭大会

「小学生の部」

### ◎最優秀賞

☆武器よりコミュニケーション 矢祭小学校六年 高信 治仁・・・4

### ○優秀賞

☆いじめについて考えよう 矢祭小学校五年 小野瀬 芽依・・・6

☆ゴミ問題について 矢祭小学校五年 鈴木 香依奈・・・8

☆臨時休校を経験して 矢祭小学校六年 武居 武蔵・・・10

「中学生の部」

◎最優秀賞

☆高齢化が進む世の中で

矢祭中学校三年

近内

彩花・  
・  
・

12

○優秀賞

☆思いやりのある町へ

矢祭中学校一年

鈴木

梨心・  
・  
・

14

☆諦めなければ道は開ける

矢祭中学校二年

古市

真愛・  
・  
・

16

「高校生の部」

◎最優秀賞

☆夢のために

学校法人石川高等学校一年 篠田 日向・・・・ 18

○優秀賞

☆我が町を新たな聖地に

福島県立修明高等学校一年 大垣 めばえ・・・・ 20



## 最優秀賞

武器よりコミュニケーション

矢祭小学校 六年 高信 治仁

SDGsという言葉を知ったのは、環境問題について調べているときでした。だからぼくは、SDGsというのは環境をよくするための約束だと思っていました。実際、この言葉がテレビやネットで使われるとき、環境問題と一緒に使われていることが多いと思います。そして、小学生では、他にどのような目標があるのか知っている人の方が少ないかもしれません。しかし、社会科の学習でSDGsについて詳しく調べてみると、これは、世界の人々が様々な場面で安心、安全に暮らすことで

できるように定められた目標で、環境問題だけのものではないことがわかりました。その中で、ぼくが一番大切にしなければならぬと感じているのが、十六番目の目標の「平和」です。

今、世界の色々なところで戦争が行われています。特に、ロシアとウクライナの戦争は大きな問題になっています。ぼくは、戦争は反対です。なぜ、えらい人たちが考えた戦いに、ぼくたちのように戦争に反対している人が巻き込まれなければならないのでしょうか。核や武器を持たなければ、戦争は起こらないのではないのでしょうか。そして、こんな風に考えている人は、きつとぼくだけではないと思います。しかし、戦争はなくなりません。逆に、ぼくたちよりもっとたくさん勉強した大人の人たちが、核を作ったり、戦争をしようとしていたりします。だから、どうしても核などの武器を持つ国がなくならないのか、戦争がなくならないのかについて考えてみました。

例えば「今から全ての国で武器を持つのを止めましょう」というきまりができて、「全ての国が武器を持っていません」と宣言したとします。しかし、他の国の人たちは、本当に他の国が武器を持っていないのかわからないため、とても不安になります。隣の国がこっそり核を持っていて、他の国を全部支配してしまおうとするかもしれないのです。もし本当にそうなら



しまったとき、核を持っていない国は、核を持っている国に従わなければならないようになってしまいます。これが原因で、「それならみんなが武器を持ったまま、戦争をしないように努力しよう」ということになってしまったのだと思います。でも、結局今のロシアやウクライナのように、核戦争になるかもしれないという恐怖に、世界中が震撼しています。このままでは、十六番目の目標はずっと達成できないということです。

では、どうすればよいのでしょうか。ぼくは、やっぱり核や武器を持つてはいけないと思います。本当の平和を実現するために大切なのは、武器ではなくコミュニケーションだと思います。例えば、ぼくたちの学教、学年で考えてみます。時々、ちょっとしたけんかになることもあります。話してみると、お互いの気持ちがわかってすぐに誤解だったということがわかり、あつという間に仲直りです。だから、今、ぼくたちは、とても楽しく毎日を過ごすことができます。友達に裏切られるかもしれないという不安は一切ありません。それは、お互いがお互いを信じ、自分の思いをしっかり伝えることができます。からだだと思います。お互いを思いやれているからだだと思います。その結果、学級、学年全体で高め合うことができますと感じています。

確かに、学級、学年は、世界の国々に比べたらとても小さな集合体ではありますが、こういったコミュニケーションを地動に広げていくことが大切だと思います。自分の私利私欲だけでなく、思いやりの気持ちをもち、コミュニケーションを大切にする人たちが、それぞれの国を治めることができるよう、ぼくたち自身も意識する必要があると思います。だからもう一度、ぼくの考えを主張します。「武器よりコミュニケーション」です。





## 優秀賞

いじめについて考えよう

矢祭小学校 五年 小野瀬 芽依

みなさんは、「いじめ」という言葉を聞いたことがあると思います。では、いじめについて詳しく知っていますか。いじめとは、人間関係のある者から、心理的、物理的な攻めを受けられたことにより、精神的な苦痛を感じたことをいいます。人をいじめるといふことはとても残念なこと、人間関係にも悪いいきょうをあたえてしまっています。

わたしが、初めて「いじめ」について知ったのは、小学三年生のときでした。いじめについてのテレビ番組を見たのがはじま

りでした。それからわたしは、いじめられている人はいないかなど教室を見回すようになりました。

全国ではたくさんのおいじめが起きています。例えば、言葉のおいじめ、いじめにはたくさん種類があります。例えば、言葉のおいじめ、ぼう力をふるうおいじめ、無視をするおいじめ、万引きをさせるおいじめ、物を買わせるおいじめ、物をかくすおいじめ、仲間はずれにするおいじめなどがあります。最近では顔が見えなく、とく名で利用できる、SNSを悪用したSNSのおいじめが増加し、たくさんのおいじめに悩まされています。特に低学年でのおいじめも増えてきています。

いじめがない方が楽しく過ごせるのに、どうしていじめは起きるのでしょうか。

それはストレスが原因になっている場合が多いそうです。最近では、たくさんのおいじめが売っていて、ゲームをやっている人も多いと思います。オンラインで友達やいろいろな人とつながることができるゲームもあります。その中で、口論になったりぼう言があったりすることで、ストレスがたまってしまうそうです。いじめの原因であるストレスをかかえている人がたくさんいるということは、いじめが起きやすいということです。



そんな「いじめ」をへらしていくために私たちにできることはあるのでしょうか。いじめは、人目に付かないところで起こりやすく、一人の人を何人かでいじめることがあります。そうになると、なかなか他のクラスのいじめを発見することはむずかしくなってしまう。でも、いつもいる自分のクラスの中では、見つけることができるかもしれません。まずは、自分のクラスからいじめが起きないように周りをよく見て生活していきたいと思います。そして、たくさんのクラスに広げていきたいと思えます。もし、いじめやいじめになりそうな場面を見つけたら先生に相談して、少しでもいじめでなやんでいる人をすくえるようにがんばりたいです。また、いじめは人間関係に悪いいきようをあたえてしまうので、いじめを早い段階で見つけて、先生に相談することで人間関係が悪くなることをふせぐこともできます。いじめがなくなればたくさんの人が笑顔でくらすことができます。

私は、いじめについてテレビで見たり、自分で調べたりすることで、少しでもいじめられている人をすくえる方法がたくさんあるということを知りました。

私は、これからもいじめについて意識して生活し、いじめがない学校・社会にしていきたいです。

周りを見て生活することや友達と仲良くするなど、私たちのちよつとした行動でいじめをなくせると思います。ぜひ、みなさんもいじめがなくなるような取り組みをしてください。みなさんでいじめがない世界を作っていきましょう。





## 優秀賞

### ゴミ問題について

矢祭小学校 五年 鈴木 香依奈

みなさんは、ゴミが町や自然にどんなえいきょうがあるのか知っていますか。

時々、「ゴミはかんきょうに悪い。」というニュースがテレビなどでやっています。地球温暖化のニュースも耳にします。これらのニュースはすべて、ゴミが関係しています。

私たちが生活する中で、ゴミはあたりまえのように出ています。野菜の袋、お惣菜の箱、肉のパックなど、いろいろなところにゴミになるものがあります。そして、そのゴミを人が海や山、

町に捨てることにより、そこにいる動物がゴミを食べて、喉に詰まったり、害になったりして、動物たちが死んでしまっています。

とくに、ニュースとかでは、海にゴミを捨てて海が汚くなったり、カメがプラスチックを食べたりする、ということをよく聞きます。

私は、そういうニュースを聞くと、どうしてゴミを自然に捨てるのだろう。海や山、動物は人をいやしてくれる存在なのに、それを汚したり、死なせたりするのはどうなのかと思います。海や山、町がきれいだと気持ちや心がきれいになり、動物たちも暮らしやすくなります。

そのために、私達ができることは、ゴミを決まった場所以外に捨てないこと、ゴミを減らすことが大切だと思います。

ゴミを減らすため私ができることが二つあります。まず、いらなくなった服などリサイクル出来るものはリサイクルしたり、必要ない物を買わないようにしたりすることが大切だと思います。そして、食品ロスもゴミを減らすために大切だと思います。

いろいろな資源から様々なものを作ることが出来る現在、私たちの生活は便利になりました。しかし、地球上で出るゴミの量は、世界中の人口が増えていくとともに、これからもゴミは

増え続けると予想されています。

世界中のゴミの量は、二〇五〇年には、二〇一〇年の二倍以上の約二百二十三・一億トンになるとの予測もあります。日本では、約半分のゴミは再び、資源として再利用したり、自然に返したりしていますが、残りは燃やすなどの処理がされた後、埋め立てるということをして、処分しています。しかし、このままだと私たち子どもが大人になる頃には、埋め立て処分場がいっぱいになり、埋め立てる場所がなくなってしまうという予測がされています。

二つ目として、食品ロスを出さないようにします。私は、家での食事や給食では、食べ物に感謝をして、残さないで食べています。先日行われた宿泊学習の食事は、バイキング形式でした。食べられる量を考えて残さずに食べてきました。他には、消しゴムのケースがやぶけたり、ボロボロになったら、いろいろな紙を使って消しゴムのケースを作ったり、いらぬ紙のうら側を使ってアルコールペンでぬりたい紙の下に引いて色をぬったりして、ゴミを減らすためにくふうをしています。

私は、ゴミ問題について調べたりして、ゴミを減らすために私にもできることがたくさんあることが分かりました。

ゴミを減らすために、今実践していることをこれからも続け、

他に、いらぬ段ボールで棚を作ったり、リサイクルをしたりしてゴミを減らしたいです。

そして、ゴミ問題を少しでも減らせるようにがんばりたいです。みなさん、一緒にがんばりましょう。





## 優秀賞

### 臨時休校を経験して

矢祭小学校 六年 武居 武蔵

みなさんは、学校が好きですか。みなさんの中には、『学校に行くことがいやだ、行きたくない。』と思う人もいるのではないのでしょうか。以前の私もその中の一人でした。去年までの私たちは、友達同士で休み時間になると言い争いになることが多く、仲が良く見えるようで実はあまり良くない関係でした。しかし、六年生になってからは、トラブルやもめることがほとんどなくなりました。休み時間になると、みんなを外に行つてドッジボールをしたり、鬼ごっこをしたりして楽しく過ごしています。授業では、去年と比べて発言が増え、クラス全体の雰囲気がとてもよくなっています。私は、

六年生になってからの毎日がすごく楽しいです。

そして、そんな時コロナウイルスの影響で臨時休校を経験しました。臨時休校中は、友達と遊ぶこともできず、宿題にもなかなか集中して取り組むことができない毎日でした。

休校中、ずっと家で過ごしていた時間は、正直楽しくありませんでした。学校がとても恋しかったです。臨時休校が終わり、久しぶりに登校したときは、とても楽しかったことを覚えています。私は、この臨時休校を経験して、感じたことが二つあります。

一つ目は、学校に通えることのありがたさです。今まで私は、学校に毎日通えることが当たり前だと思っていました。しかし、そうではないことに気が付きました。私たちが毎日当たり前前に授業を受けられていたことも、友達と楽しく過ごしていたことも決して当たり前のことではありません。今、世界ではウクライナとロシアの戦争や貧困の拡大が問題になっています。ウクライナとロシアの戦争では、罪なき多くの命が奪われています。私と同年代の子どもたちもいつ大げがをするか、いつ命が奪われるかわからない状況の中で生活しています。そのような生活の中では、当然学校に通うことなどできません。当たり前の日常が戦争によって奪われているのです。貧困の拡大も深刻な問題となっています。国や家が貧しいせいで、学校に通えない子供たちが世界には約二億人います。私は、貧困が原因で学校に通えない子供がそんなにもいることにとても驚きました。すべての子供たちが教育を受ける権利を持っています。しかし、現状は違うことを知り、悔

しい気持ちになりました。それと同時に、自分がいる環境がどれほど恵まれているか改めて実感しました。だからこそ、毎日学校に通うことができ、授業を受けたり、友達と楽しく過ごしたりすることができる幸せな毎日を大切にしていきたいと強く思います。

二つ目は、人との関わりの大切さです。最初に話したように、臨時休校中は友達と遊ぶこともできず、宿題にも集中して取り組むことができませんでした。一人で遊んでも、一人で勉強しても、全く楽しくなかったのです。しかし、久しぶりに学校で友達と遊ぶ時間はとても楽しく、一人で宿題をするよりも、みんなで授業を受けた方が学びを深められることが分かりました。そこで、私は気づきました。私の充実した毎日は、多くの人が関わり、支えてくれるからこそ成り立っているのです。私のクラスは、一人ひとりが助け合って、協力しながら生活できるクラスです。例えば、何かをこぼしてしまった時、みんなが拭くを手伝ってくれます。誰かがケガをすればみんなが駆けつけてくれます。このように、困っている人がいたらすぐに助けにきて寄り添ってくれる人ばかりです。他にも、学校行事に全力で取り組んだり、クラスで問題があれば一丸となって解決を目指すことができました。私は、こんなにも優しく頼りになる友達、そしてなんでも相談できる先生と同じクラスで過ごすことができ、本当に幸せです。知らず知らずのうちに、自分が人に支えられているように、自分も人を支えています。だからこそ、今まで以上に人との関わりの大切さを意識して、人に優しく生活していきたいと思います。



私は、臨時休校を経験して学校に通えるありがたさと人との関わりの大切さに気付くことができました。私は、この学校も、先生たちも、友達も本当に大好きです。小学六年生という一生に一度しかない、このかけがえのない時間や友達を大切にしたい、皆さんの思い出を作りたいと思います。これから環境が変わり、つらい思いをすることもあると思います。そんな時は、自分の環境がどれほど恵まれているのか、自分がどれだけ多くの人に支えられているのかを思い出して様々なことに一生懸命取り組んでいきたいと思っています。





## 最優秀賞

高齢化が進む世の中で

矢祭町立矢祭中学校 三年 近内 彩花

今、日本は、大国・中国を抜いて、世界No.1の高齢化になっている。私は、一人で生活していくのが困難な高齢者のために見直すべきことがあると思う。

一つ目は、老人ホームや介護福祉施設で働く従業員を増やすということだ。以前、老人ホームに職場体験に訪れたときに介護士が一人の人にかかりきりにならなくなってしまつたと、人手が足りなく大変だったからだ。食事や体操する時等は特に支援が必要だ。しかし、介護施設でも介護士だけが働いているわけではない。医師・生活相談員・看護職員・栄養士・機能訓練指導

員・介護支援専門員(ケアマネージャー)・事務員など介護施設内だけでも様々な職種がある。だから、介護士になりたくなくてもお年寄りと関わりたいと思う人は介護施設内で看護師として働くことも出来る。このような職種を伝えあつていけば介護施設で働く従業員も増えるのではないかと思う。

二つ目は、高齢者の一人暮らしによる問題だ。「家で高齢者が倒れていた」というニュースを見た事があるからだ。「熱中症で倒れていた」「階段で足を滑らせ転倒」など一人でいるときに起こるケースが一番多い。「老人ホームに入りたくない、行きたくない」という高齢者も少なくないと思う。私は、出来るだけ高齢者を一人にさせない方がいいと思う。高齢者を一人にさせないようにするために日帰りで楽しめる施設を充実させ、増やしていけばいいと思う。介護福祉施設に入居せず、自宅から通い、日帰りの介護サービスを提供するデイサービスといったものがある。デイサービスを増やして利用してもらえば高齢者が一人になるということは少なくなっていくと思う。また、デイサービスでも一人一人が個性を發揮出来るような空間を作つてあげることが大事だ。趣味や特技といったものを皆でコミュニケーションをとりながらゆつくりと楽しめる場所を作つてあげればよりよいデイサービスになっていくと思う。



三つ目、介護士の仕事は重労働だということだ。「体力的にきつい」「メンタルがやられそう」というイメージを持つ人も多い。以前、職場体験で施設の人に、「どんな時にやりがいを感じられますか。」と聞いたところ、

『ありがとう』とうれしそうに言われた時や、入居者さんの笑顔が見られた時にはやって良かったなと思います。」

と言っていた。このように大きなやりがいを感じられる素敵な仕事でもある。元気がない人がいたり、入居している人が急に具合が悪くなったりと大変な事の方が多いと思う。勤務時間も不規則だそう。そこで、あまり休憩が取れない介護士の人達のために少しでも休憩する時間を増やしたり、仮眠してもらったりできる時間を増やせば少しは楽に働けると思う。

私は、これらの三つのことを特に見直すべき、改善点だと思う。他にも、いろんな解決策はある。入所型には二十四時間三百六十五日の介護サービスを提供するものや通所型では自宅から通い、日帰りの介護サービスを提供するもの、訪問型のホームヘルパーが利用者さんの自宅を訪問して介護サービスを提供するものがある。それらも、対策の一つとして考えられるのではないか。さらに、六十五歳以上は高齢者の対象となっている。高齢者対象の様々な特典やサービスを充実していけばよりよい

社会になっていくと思う。

私には九十歳をこえた曾祖母がいる。これから曾祖母や他の高齢者ともっと関わりあっていきたい。そのために、今後、積極的に地域の活動に参加していこうと思う。





## 優秀賞

思いやりのある町へ

矢祭町立矢祭中学校 一年 鈴木 梨心

私は、町が体の不自由な人や目の不自由な人、主に障がい者と呼ばれる人達が、もっと便利にもっと快適に暮らせるように工夫をするべきだと思います。

今、私から見た町の施設にはあまり工夫をされているところが無いと感じます。しかしだからといって全然ないわけではありません。例えば、福祉施設などの公共施設の入口には車いすの人のためにゆるやかな坂をつけたり、車いす専用のトイレがあつたりします。しかし、これだけだと目の不自由な人が受けるメリットがあまりありません。だから、私はもっと工夫をす

るべきだと思います。

例として、「点字ブロック」「音声式信号機」などがあげられます。この二つは主に目の見えない人が生活しやすくなるためのものであります。私がもし、自分の目が不自由になってしまったら町にどういう工夫をしてもらいたいか、考えてみました。考えてみると、道路の白線の内側をもっと広くして動きやすくする、点字ブロックを道につける、また信号が赤か青なのかをわかるようにする等、さまざまな工夫をしてもらいたいことが、でてきました。点字ブロックが町の歩道にあると、目が不自由でも進む方向と止まる場所がわかるので、いろいろなところに行くことができると思います。逆に、点字ブロックがないと車以外でどこにも行けません。本当に、目の不自由な人は、もっともっと工夫してほしいことがあるんだなと思いました。

もっともっと障がい者の人たちによりそい助けてあげたいと思っている人は、私以外にも町や日本、世界にたくさんいると思います。子どもの私でも、今障がい者の人に出発することを探して、実行していきたいです。インターネットで検索すると障がい者の人のためのボランティアを募集していたり、私達の町でも高齢者の方への支援活動があります。だから、親と相談しながら機会を探し、率先して取り組んでいきたいです。人事だ

とは思わず一人一人が思いやりをもてば、それが広がって、豊かで優しい町、そして日本、世界になります。私はそうしたいと思えます。

私達の学校にも、一人暮らしの高齢者の方々に、暑中見舞いの葉書を書くボランティア活動があることを知りました。来年は、必ず参加したいと思えます。大人になったら、さらにできることがどんどん増えると思えます。だから、自ら進んでいろいろな事に挑戦していきたいです。

私たちが、あたりまえのように毎日使っている体の一部を、世界にはあたりまえに使えない人がたくさんいます。それは、障がい者の方だけでなく、高齢者の方々にも言えることではないでしょうか。だから、自分のことだけを考えず、あたりまえに体の一部を使えていない人の事も考え、その人たちのためにさまざまな行動をおこしてほしいと思えます。その一人一人の行動によって障がい者の人たちが、少しでも、不便を感じない暮らしが出来たら良いなと思えます。

私たちが、大人に近づいていく、一年後や十年後の未来を、いろんなものが発明、開発され、とても便利な世界にしていかなくはなりません。誰もが、不自由なく暮らしている世界にしていきたいです。私は、そのためにまず、たくさんの人に障

がい者の人たちを思いやり、その人たちの不自由さをもっともつと知っていく必要があるのではないかと思います。





## 優秀賞

諦めなければ道は開ける

矢祭町立矢祭中学校 二年 古市 真愛

みなさんは、自分の意志を貫き通し、諦めずに努力し続けることはできますか。私は諦めたくない夢があります。それは、将来看護師になるという夢です。看護師は人の命に関わる大変な仕事ですが、私は、病気や怪我で苦しむ人の為に働きたいです。しかし、私は血や注射が苦手です。そんな私に母は、血や注射に関わらない理学療法士や管理栄養士の方がいいのではないかと勧めてきます。また、私の性格上、感情移入しすぎて、心が押しつぶされてしまうのではないかと心配しています。母が私のことを思ってくれているのはありがたいのですが、私は絶

対看護師になります。

小さい頃の私は通院や入院を繰り返していました。その度の優しく声をかけてくれたのが看護師さんでした。その声かけもあり、少しずつ元気になることができました。みなさんも、自分の体調が優れていないときに優しい言葉をかけてもらえると嬉しいと思います。

あるとき私は、ナイチンゲールの本を見つけました。ナイチンゲールという人は、一八五三年から一八五六年の間に行われたクリミア戦争で傷ついた兵士たちに寄りそい、後に「クリミアの天使」と呼ばれた看護師です。ナイチンゲールは親に看護師になることを反対されていました。しかし、自分の意志を貫き通し、たくさんの困難を乗り越え、看護師になることができました。何事も諦めずに挑戦してきたナイチンゲールが私のあこがれの人になりました。私も彼女のように誰にでも優しく接して、何事にも諦めずに挑戦していく人になりたいと思っています。

ナイチンゲールは、「あなた方は進歩し続けない限りは退歩していることになるのです。目標を高く掲げなさい。」という言葉を残しています。ですが、目標を高く掲げているだけでは夢は実現しません。勉強も大切です。医療関係の仕事は理系が中心

なっています。しかし、私は理系ではなく、文系の方が得意です。文系も大切ですが、数学と理科が勉強面では大切になっていきますので、理系も頑張って苦手分野を克服しようとしています。少しずつ理系を得意にしていき、高校入試に合格したいです。そして、学習面だけではなく、看護師として必要な能力も身につけたいです。例えば、血や注射への慣れ、患者さんとのコミュニケーション、対応力などの能力です。そのような能力や知識を身につけ、普段の生活の中で培っていききたいと思っています。

その後も努力を続け、大学にも合格し、学習能力と看護師として求められる力を身につけていき、ナイチンゲールのような看護師を目指したいです。最後に最初の方でも言いましたが、私のことを考え、血や注射などに関わりのない医療系の仕事を考えてくれる母の優しさは、とても感謝しています。しかし、私はこれからも、夢を叶えるために注射嫌いや苦手なことを克服し、最後まで諦めずに努力していきます。そして、看護師になることができたなら、「体だけでなく、心も元気にする看護」ができるように、誰にでも優しく接することができるようにし、少しでも患者さんの笑顔を取り戻していきたいです。夢を叶えることが大変だということは分かっています。しかし、諦めて

しまつては、決して夢は叶いません。私は私が決めた夢に向かい、ナイチンゲールのように覚悟をもって取り組んでいきます。どうか、その覚悟を諦めない姿を見守っていてください。





## 最優秀賞

夢のために

学校法人石川高等学校 一年 篠田 日向

私の将来の夢は自衛官です。様々な場面で苦しんでいる人たちを助けられる人になりたいと思っています。また、地元福島を守るだけでなく、世界との繋がりを大切にして、国際的に活躍する自衛官になりたいです。

この夢を持ったきっかけは、二〇一一年に発生した東日本大震災です。多くの人が亡くなり、行方不明者が大勢出ました。家が地震や津波で崩壊し、福島県内では、原発事故で故郷を追われた人もいました。

当時の私は四歳で、震災の発生時は保育園でお昼寝の時間でした。急に大きな地震がきて、恐怖で泣いてしまったことを今でも思い出します。余震が絶えず続き、余震が来るたび泣いていました。夕方から、津波がニュースで大きく取り上げられているのを見ながら、祖父母の家で家族を待っていました。

保育園児だった当時は、危険な被災地でどんな人たちが救助活動を行っていたのか全然考えられませんでした。小学校高学年になって震災について調べる機会があり、そこで初めて、自衛隊の災害救助によって福島の多くの人々が助かったことを知りました。崩れて危険な建物で行方不明者を捜索する姿や、避難した人に寄り添っている姿が当時の映像や写真にたくさん残っていました。私は実際に震災を経験した人間として、今度は自分が助ける側の人間になりたいと強く思いました。それから、女性の気持ちを汲み取れる自衛官になりたいと考えました。女性自衛官の比率は、十年前は全体の約五・二%で、現在は七・四%と年々増えています。まだ十分とは言えません。様々な問題がある被災地では、女性自衛官だからこそ打ち明けられる悩みもあると思います。私はこうしたデリケートな問題を受け止め、解決に導ける自衛官を目指しています。



災害が甚大で、消防や警察のレスキューでは足りないときに、自衛隊は出動します。その「最後の砦」のような存在感に憧れました。またその任務には、有事の際に国を最前線で守ることや、海外への災害派遣もあります。私は、日本だけでなく、海外をも守るその役割の重要さを知り、自衛官になることをより強く決意しました。

また自衛隊では、国際平和協力活動を行っています。これは、国際的な平和維持や人道支援などの活動です。日本だけでなく、多くの国が参加しています。支援を通じて様々な国の人と交流できることに魅力を感じます。紛争地域では停戦状態の監視や兵力の引き離しなど、危険ではありますがやりがいのある任務だと思っています。

私はこの夢を叶えるために心がけていることが三つあります。一つ目は勉強です。目標としている防衛大学校に合格するには、今の学力では不安です。そのため毎日の授業をしっかり受け、課題を期限までに提出するようにしています。やらされる勉強から、自ら進んでやる勉強になるよう心がけています。

二つ目は、地元福島から日本全体、世界情勢まで多くの情報を得ることです。自衛官として様々な状況に対応できるようにするために、身の回りで今何が起きているのかを知り、常

に対策を考えておく必要があります。そのため、新聞やニュースを毎日欠かさずチェックするようにしています。

三つ目は、諦めない心を持つことです。これは私にとって最大の課題です。自衛隊の任務は人命に関わる重要なものが多く、どんなに過酷でも諦めてはなりません。今のうちから生活の様々な場面で諦めないことを心がけて、強い精神を身につけていきたいです。

以上のことを心がけ、私は地元福島から世界まで守れる自衛官になりたいと思います。





## 優秀賞

我が町を新たな聖地に

福島県立修明高等学校 一年 大垣 めばえ

今、社会では少子高齢化と過疎化が課題となっています。それは私の住む矢祭町も例外ではありません。私の近所には二軒の家があります。どちらの家に住んでいるのも高齢者と呼ばれているお年寄りです。また私の妹はスクールバスで小学校に通っています。同じ地区に住む子どもたちと班になってバスに乗るのですが、妹の班にはもう三年間、新一年生が入っていません。このように、高齢者が増え、子供が減っていく少子高齢化はすでに身近なものになっています。成長していく子供が減っていくことは、社会を作り、回していく若者も減っていくことでも

あります。矢祭町は人口5702人の小さな町ですが、私にとっては生まれ育った大切な故郷です。そのため、もっと活気あふれる賑やかな町になって欲しいと考えています。

そこで私は、日本全国でどのような町おこしが行われているのか、調べることにしました。そこで一番気になったものを紹介します。

みなさんは「聖地巡礼」という言葉を知っていますか。もともとは宗教において重要な意味を持つ場所に信者が赴くことを指す言葉ですが、今はアニメなどの舞台になった場所に訪れ、キャラクターと同じ場所を巡ることも指しています。この言葉を2016年に公開された「君の名は。」というアニメ映画をきっかけに知ったという人も少なくはないでしょう。アニメーションには世代や国籍、宗教に関係なくすべての人を感動させたり、楽しませたりする力があります。“アニメ”という言葉がそのまま英語になってしまったことから海外で日本のアニメーションがどれだけ支持されているかわかると思います。アニメの力はたまにしか会えないおじいちゃんやおばあちゃんと孫をつなげる架け橋になるかもしれません。アニメの力はあまり話さなくなったお父さんと娘を久しぶりの会話に導くかもしれません。アニメの力は言葉の壁を超えて、世界中を一

つにするかもしれません。そしてアニメの力は町おこしにも影響を及ぼしています。先程、触れた聖地巡礼です。アニメの力があれば、普段あまり観光客が来ないような場所も賑やかな場所になることがあります。

矢祭町にも観光名所はあります。矢祭山という、春には桜が、初夏にはツツジがきれいに咲く場所です。しかし、自然を楽しむ場所なので楽しめる季節は限られます。さらに、小さな子どもには魅力が伝わりづらいこともあると思います。対して、アニメは季節に関係なく、老若男女が楽しむことができます。

このようにアニメにはたくさんの方がいます。私は矢祭町を舞台としたアニメ制作が町おこしにも活用できるのではないかと考えます。アニメ作品はコンテストを開催して全国から募ってもいいかもしれません。情熱を持ったクリエイターは全国に、福島県に、そして矢祭町に存在し、今後育っていくことでしょう。何もないまま、矢祭町に興味を持ってもらうのは難しいことだと思います。そんな時、アニメが矢祭町への入り口になってくれると思うのです。アニメをきっかけに矢祭町を何度も訪れるようになれば、たくさんの方の矢祭町の魅力に触れる機会も増えると思います。そうして、矢祭町に住みたいと考えてくれる人が増え、私の故郷である矢祭町がもっと活気ある町に

なつて欲しいと願つています。



## 編集後記

皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。おかげ様で多くの方々にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和四年十二月 発行

発行者 矢祭町青少年育成町民会議

事務局 矢祭町教育委員会教育課

